
スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中 『オータムヴィレッジ編』

竜斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中 『オータムヴィレッジ編』

【Nコード】

N0044Z

【作者名】

竜斗

【あらすじ】

ついに第4弾を迎えた逃走中・・・。
舞台は、『オータムヴィレッジ』という里・・・。
22人の逃走者が、逃走中の幕を挙げる！！
果たして、逃げ切れる者は、誰だ！？

逃走者紹介（前書き）

作者さんからのリクエストは第4弾の外伝に受け継ぎました。

初めは、逃走者紹介・・・。

逃走者紹介

ローゼンメイデン（7）

水銀燈

相手を小馬鹿にするような猫撫で声だが、本気になると感情的になる。

冷酷非情で好戦的な性格。アリスへの執着心が非常に強く、ローザミステイカを集める為なら手段を選ばない。

ミッシェンにはあまり行かない。足は遅い。

金糸雀

頻繁に1人で外を出歩く、何度も真紅達を狙うなど、行動的で好戦的。

だが実際は策に溺れて自滅する事が殆どで、所謂ドジっ子。

それでも失敗にくじけず、自分なりに一生懸命取り組んでいる。

ミッシェンには内容次第で行く。足は遅い。

翠星石

所謂ツンデレな性格で、清楚で淑やかな容姿に合わずかなりの毒舌家。

更に天邪鬼で計算高く高飛車な為、ジュンから「性悪人形」と呼ばれている。

だが実は臆病かつ泣き虫で人見知りな為、すぐ誰かの後ろに隠れてしまう。

ミッシェンには内容次第で行く。足は遅い。

蒼星石

生真面目で寡黙。双子の翠星石とはいっても一緒だったが、自分自身をちゃんと持ち

「半身」ではなく「一人」でいられる彼女にはコンプレックスを持っている模様。

翠星石と二人きりの時にしか見せない表情もあったものの、その想いの深さの分だけ

羨みや憎しみも強く、翠星石と敵対した時は戦えることが嬉しいと言った。

ミッシオンには積極的。足はかなり速い。

真紅

女王様気質で誇り高く、マナーに厳しいが、契約者との絆を尊重する他、

仲間への思いやりもあり、桜田家に集う姉妹のリーダー的存在となっている。

常に冷静沈着で貫禄や威厳すら感じさせる言動も多い。

ミッシオンには時々行く。足は結構速い。

雛莓

泣き虫で甘えん坊かつ我侬で、姉妹の中でも特に幼稚な為、

翠星石から「チビ莓」等と呼ばれてからかわれているが、

ジュンや巴、姉妹への思いやりは強く優しい。

ミッシオンにはあまり行かない。足は遅い。

薔薇水晶

寡黙で無表情だが好戦的。舌足らずな話し方で、相手の言葉をそのまま真似る癖がある。他のドール達にアリスゲームを唆して、最終的にローザミステイカ全ての占有を狙う。ミッションにはあまり行かない。足は遅い。

プリキュアシリーズ(2)

新参戦の方々

日向咲

そこにいるだけで周囲をパツと明るくさせるムードメーカー的な性格で、舞の兄・和也には「真夏の向日葵みたいな子」と例えられた。その明るさから人と人とのパイプ役を無意識に務めることもしばしば。

ミッションにはあまり行かない。足はかなり速い。

前回からの引継ぎ

山吹祈里

おっとりとした性格でのんびり屋だが、自分に自信が持てず、少々引つ込み思案な所がある。そんな内向的な自分を変えようと、ラブ達の結成したダンスユニットに参加することを決意した。ミッションには積極的。足は遅い。

魔法少女リリカルなのはs t r i k e r s (3)

再参戦の方々

高町なのは

明るく優しい性格で強い正義感を持つが、辛いこと、悲しいことを抱え込んでしまう癖があり、一時期はそれが原因で彼女を心配する友人のアリサとケンカ寸前にまでなった。ミSSIONには積極的。足は遅い。

フェイト・T・ハラオウン

仕事振りも優秀な一流の魔導師だが、仕事を離れれば親友や子供たちに対して少々過保護なほど世話焼きな性格。ミSSIONには時々行く。足は遅い。

八神はやて

前向きで、優しい心を持った強い少女。しかし、なのはやフェイト同様、

辛いことや悲しいことを一人で抱え込む癖があり、シャマルがそれを心配する場面もあった。

ミSSIONには内容次第で行く。足は遅い。

スマブラx(4)

前回からの引継ぎ

マリオ

ラテン系らしく陽気で活発な雰囲気醸し出すようになっており、陽気、友好的、正義感が強い、身体能力が高い、有名人、オールラウンダーといったヒーローキャラクターとしての普遍的なイメージが少なからず出されている。
ミSSIONにはあまり行かない。足は速い。

再参戦の方々

ネス

イーグルランドにある小さな町、オネットに住む12歳の少年。一見ごく普通の少年だが、超能力を持っている。
おそらく幼いころから超能力を持っていたと考えられる。
ミSSIONには時々行く。足は速い。

ヤングリンク

コキリの森に住むコキリ族の中でパートナーとなる妖精が来ず、仲間^ミにそれを
からかわれながらも平穏な日々を過ごしていたが、妖精ナビィと出会^いい、
森の長であるデクの樹の死をきっかけに森を出て冒険に出る。
ミSSIONには時々行く。足は結構速い。

ソニック・ザ・ヘッジホッグ

冷静沈着だが、少し短気で、深く考えずに状況の中に飛び込むこともよくある。

しかし、彼の自信は揺るぎなく、それはいかなる困難を前にしても変わらない。

ミSSIONには時々行く。足は滅茶苦茶速い。

ぶよぶよ20th(3)

前回からの引継ぎ

アルル・ナジャ

魔導師の卵の女の子。天真爛漫、明朗活発、とにかく元気で、明るくさばさばした性格。純粹無垢だったりシビアで戦闘慣れしていたりする。遺跡探索が趣味。ミSSIONには積極的。足は速い。

再参戦の方々

アミティ

プリンプタウンの魔導学校に通う明るい女の子。

「赤ぶよ帽」を愛用しており、本人曰く、自分はこの子と運命を共にしているとのこと。

ミSSIONには時々行く。足は遅い。

あんどურიანი

理系人間で成績優秀、頭の回転が速い。ただし、本人曰く人名を覚えるのは苦手。他方、自分に出来ないことや解らないことがあると少し対抗意識を燃やしてしまう負けん気の強い面もある。

ミッションには内容次第で行く。足は遅い。

ロックマンx(3)

新参戦の方々

アクセル

純粹で、はつらつとしている。行動パターンもやや幼く無鉄砲なところがあるため、

当初は生真面目であるエックスと衝突が絶えなかった。

ミッションには積極的。足は速い。

再参戦の方々

エックス

平和を脅かす敵を倒そうとする「正義感」と、敵とは言え破壊することのためらう

「優しさ」を併せ持ち、この2つの挟間で揺れ動き、

思い悩みながら戦う様子が描かれ続ける。

ミッションには積極的。足は速い。

ゼロ

専用武器ゼロセイバーを用いて、倒した相手から技を学習する赤いレプリロイド。

エックスのよき理解者であり、戦友であり、先輩であり、

無二の親友であり、そして戦うことを定められた最大のライバルである。

ミッションには積極的。足は速い。

逃走者紹介（後書き）

次回は、準備中・・・。

オープニングゲーム？（前書き）

準備中が終わって、ついにオープニングゲームが始まる・・・！！

オープニングゲーム？

ここは、深夜の忍者の隠れ里・・・。

そう、ここで、逃走中のゲームが行われる・・・！！

とある場所に集められた22人の逃走者達・・・。

彼らはこれから、運命をかけ、恐怖のオープニングゲームに挑む・・・！！

ハンターまでは、22m。

逃走者は一人ずつ前に進み、鎖を引き抜かなければならない。

ただし、22本のうち1本は、ハズレの鎖・・・。

これを引いた瞬間、4体のハンターが一斉に解き放たれ、ゲームが、スタートする・・・！！

更に、22本のうち5本は、ドクロマークが着いており、ドクロマークを引くと、逃走者達は2mずつ前進しなければならない・・・。

全員

「いっせーのーでー！！」

全員が一斉に鎖を引いた。

アミティ

「つて、13番!？」

マリオ

「俺は22番かゝ・・・最後だな」

ヤング

「1番!？つわあ、最悪だ・・・!!」

アクセル

「15番・・・結構後の方だから回ってこないかも・・・？」

なお、鎖を引く順番は、くじ引きで決められる。全ては運任せだ・・・。

1人目は、ヤングリンク・・・。

リンクの子供時代。果たして、どうなるのか・・・。

マリオ

「何色だ？」

ヤング

「俺は・・・緑!」

ゼロ

「何でだ？」

ヤング

「自分の色だから」

翠星石

「よくある理由ですね・・・」

ヤング

「行くぞ！」

クリアか・・・？

ハンター放出か・・・？

ヤング

「うおらー！！」

ジャラッ

シーン・・・。

ヤングリンク クリア

ヤング

「ふう、良かったぜ・・・!!」

クリアした者は、離れた位置からスタート出来る・・・。

2人目は、翠星石・・・。

ローゼンメイデンのドールが、最初に立つ・・・。

蒼星石

「何色？」

真紅

「早く決めちゃって！もしかしたら」

翠星石

「せかさないで下さい！ここは薄緑です」

ネス

「何で？理由は？」

翠星石

「着てる服が薄緑に近いからです」

マリオ

「何か危険な予感がする・・・」

翠星石

「とにかく、行くです!」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

翠星石

「それっ！！」

ジャラッ

シーン・・・。

翠星石 クリア

翠星石

「ふう、良かった・・・ってドロマークついてるですう！！！」

ネス

「ええ〜！？何て事してくれてんの〜！？」

翠星石

「これはその・・・運なんですう！」

ドクロマークを引いた為、逃走者達は2m前進した・・・。

ネス

「うわあ、結構近づいたな・・・」

蒼星石

「しょうがないですよ・・・あれに従わないと」

3人目は、アルル・ナジャ・・・。

魔道士の卵、鎖の前に立つ・・・。

雛莓

「アルル、何色？」

咲

「何色なの？」

アルル

「えっと・・・青！」

真紅

「何で？」

アルル

「僕の着てる色が青だから」

マリオ

「駄目だ・・・3人とも服の色かよ・・・」

アルル

「！とにかく行くよ！」

はやて

「危険かも・・・逃げる準備しといた方がいいかも」

クリアか・・・？

ハンター放出か・・・？

アルル

「うりゃっ！！」

ジャラッ

シーン・・・。

アルル・ナジャ クリア

アルル

「良かった、青引いて・・・ってまたドロマーク!?!」

金糸雀

「な、何てことをしてくれるのかしら!？」

薔薇水晶

「ありえないわね・・・どうしてくれるの・・・!？」

アルル

「そんな事言われても!！」

ドロクロマークを引いた為、逃走者達は2m前進した・・・。

次に、4人目・日向咲が赤を引いてクリア。

次に、5人目・ネスが黄土色を引いてクリア。

次に、6人目・金糸雀が金色を引いてクリア。しかしドロクロマーク・
・・・。

次に、7人目・ソニック・ザ・ヘッジホッグが橙色を引いてクリア。

次に、8人目・真紅がピンク色を引いてクリア。しかしドロクロマー
ク・・・・。

次に、9人目・エックスが黒色を引いてクリア。しかしドロクロマー
ク・・・・。

次に、10人目・薔薇水晶が薔薇色を引いてクリア。

ドロマークが5本引かれた為、
逃走者達はハンターボックスまで10m前進した・・・。

マリオ

「うわっ、怖えっ!!」

祈里

「もう10m進んじやった・・・!!」

ゼロ

「もうちょっとで俺だ・・・!!」

果たして、ハズレの鎖を引き最初に捕まってしまう哀れな逃走者は誰なのか!?

オープニングゲーム？（後書き）

果たして、ハズレの鎖を引き最初に捕まってしまう哀れな逃走者は誰なのか！？

オープニングゲーム？（前書き）

果たして、このゲームの結果は・・・！？

オープニングゲーム？

11人目は、ゼロ……。

エックスのライバルでもあり、親友のレプリロイド、ここに立つ……。

蒼星石

「何色引くんですか？」

ゼロ

「結構これは悩むぞ……。」

フェイト

「早く決めて！」

ゼロ

「うるせえな……とりあえず、ここは薄橙色だ！」

水銀燈

「何か嫌な予感がするわ……。」

なのは

「逃げる準備を……!!！」

ゼロ

「やってやる……!!！」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

ゼロ

「どりゃあっ！！」 ジャラッ

シーン・・・。

ゼロ クリア

ゼロ

「よし、ドクロマークはついてねえ・・・！！」

祈里

「良かった・・・もう出ないでしょ」

マリオ

「誰もハズレ引くなよ・・・！！」

12人目は、水銀燈・・・。

ローゼンミスティカを狙う、第1ドール・・・。

アミティ

「あの子、何か危険な臭いが・・・」

水銀燈

「失礼ね・・・私がハズレ引くとしても？」

りんご

「アミティ、失礼だよ・・・!!」

アミティ

「そうだったんだ・・・」

水銀燈

「とにかく、紫色を引くわよ」

フエイト

「紫・・・何か嫌な予感がするわ・・・!!」

水銀燈

「行くわよ!!」

クリアか・・・？

ハンター放出か・・・？

水銀燈

「はあっ!!」

ジャラッ

シーン・・・。

水銀燈 クリア

水銀燈

「皆・・・不幸ねえ・・・」

蒼星石

「小馬鹿にしてる・・・」

13人目は、アミティ・・・。

プリンプタウンに通う明るい女の子、ここに立つ・・・。

マリオ

「あいつ結構引きそうだな・・・」

フェイト

「もう誰でもいいから・・・!!」

アミティ

「それじゃあ・・・銀色!」

フェイト

「何か中途半端な色ね．．．どうしてそれを選んだの？」

アミティ

「なんとなく。思いつきで」

蒼星石

「絶対に引きそうです、あの人．．．!!」

マリオ

「逃げる準備を．．．!!」

アミティ

「行くよー!!」

クリアか．．．？

ハンター放出か．．．？

アミティ

「えいつ!!」

ジャラッ

シーン．．．。

アミティ クリア

アミティ

「良かった．．．銀色でも当たったんだ」

雛莓

「めちゃくちゃこわかったよー!!」

14人目は、高町なのは．．．。

魔導師のエース・オブ・エースがここに立つ．．．。

なのは

「いよいよ私の出番か．．．何色引こうかな？」

マリオ

「けどハズレは絶対に引くなよ．．．!!」

なのは

「わかってるって．．．!ここは黄色!」

はやて

「き．．．黄色．．．」

蒼星石

「何か危ない予感がします．．．!!」

なのは

「皆、絶対にハズレは引かないからね！」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

なのは

「ふりやつー！」 ジャラッ

シーン・・・。

高町なのは クリア

なのは

「やった・・・ドクロマークは無い！」

フェイト

「良くやったわ、なのは！」

15人目は、アクセル・・・。

はつらつな性格のレプリロイド、ここに立つ・・・。

フェイト

「何色？」

アクセル

「そうだな．．．じゃあカーキ！」

はやて

「うわっ、絶対にハズレそうや．．．」

マリオ

「ハズレの可能性が滅茶苦茶高え．．．!!」

アクセル

「何？とにかく引くぞ！」

クリアか．．？ ハンター放出か．．？

アクセル

「どりゃあっ!!」 ジャラッ

ガコン!!!!!!!!!!

全員

「うわあああああ〜!!!!!!!!!!」

プシュー!!!!!!!!!!

4体のハンターが、放出された・・・。

ゲーム、スタート・・・。

ハンターの標的は・・・。

アクセル

「うわあああああゝ、来るなゝ!!」

アクセルだ・・・。

尚、アクセルはそのまま逃げ続ける。

しかし彼がハンターを振り切れる訳が無い。最早、逃走不可能・・・。

アクセル

「ぐあゝ!!」 ポンツ

> i 3 6 1 3 6 — 4 2 6 0 <

アクセル

「嘘だろ・・・!!?ここで終わるのかよ・・・!!?」

幸せばかりでは、無い・・・。

プルルルル

ゼロ

「何だ・・・！？『アクセル確保』やはりな・・・」

ヤング

「あいつ最初に確保されてるし・・・！！」

蒼星石

「何て事をしてくれたんですか、あの人は・・・！！」

翠星石

「あの人・・・新参戦の癖に・・・ほんとに・・・本当に何しに来たの・・・！！？」

ハンターから逃げた時間に応じて賞金を獲得出来る、それが・・・

run for money 逃走中

今回の逃走舞台は、『オータムヴィレッジ』。

季節は秋、忍者の隠れ里が舞台である。

更に、城も堀も立っており、まさに戦国の様だ・・・。

ゲーム時間は120分。逃走者達はこの狭いエリアから逃げ回る。

果たして、誰が生き残るのか・・・！？

オープニングゲーム？（後書き）

今回の逃走舞台は、『オータムヴィレッジ』。

季節は秋、忍者の隠れ里が舞台である。

更に、城も堀も立っており、まさに戦国の様だ・・・。

ゲーム時間は120分。逃走者達はこの狭いエリアから逃げ回る。

果たして、誰が生き残るのか・・・！？

ミッション1発動！（前書き）

ついに、本編が始まった・・・！！

ミッション1発動！

真紅

「ついに来た、逃走中・・・！！」

真紅は気合を入れる・・・。

雛莓

「足おそいからなう・・・うまくにげられるかなう？」

雛莓、自信があまり無さそうだ・・・。

ネス

「あつ、ハンターいるって・・・！！」

ネスはすぐに身を隠す。

ネス

「ハンター怖いぜ・・・！！」

ネス、ハンターに怯える・・・。

翠星石

「？あれはエックスとりんごが合流してるです・・・！！」

翠星石はすぐに身を隠す。

翠星石

「ロボットと人間が合流してるなんて気持ち悪いです・・・」

しかもロボットに恋してる人間なんて見た事がありませんです・
・!」

翠星石は2人に悪口を言い、余計気分が悪くなった・・・。

ヤング

「楽しつ・・・!!楽しいコレ・・・!!」

ヤングリンクは興奮して来る・・・。

ヤング

「2万・・・2万1千円・・・すげえ金たまっていく・・・!!」

祈里

「また再出演して貰ってるから、気を集中しないと・・・!!」

祈里は気を集中する・・・。

マリオ

「どうしようか・・・ん?あれはエックスとりんごか・・・」

マリオもすぐに身を隠す。

マリオ

「何故ロボットに恋を・・・」

マリオは小声で2人の悪口を言う。

エックス

「前は活躍してない奴等がどんどん捕まってるんだよな・・・」

りんご

「どうすんのこれ・・・？」

彼らの近くに、ハンター・・・。

> i 3 6 1 4 8 — 4 2 6 0 <

ハンター

「！」

見つかった・・・。

エックス

「・・・！？ハンター来てる！！嘘だろう！？」

りんご

「嘘！？逃げるわよ！！！」

2人は一目散に逃げる。

ハンターの標的は・・・。

エックス

「チッ」

エックスだ・・・。

尚、エックスはそのまま逃げ続ける。

しかし彼がハンターを振り切れる訳が無い。最早、逃走不可能・・・。

エックス

「うぎゃあー!!」 ポンッ

> i 3 6 1 4 9 — 4 2 6 0 <

エックス

「この俺が・・・やられるだと・・・!?!」

ロックマンxの主人公、早くもここに散った・・・。

プルルルル

りんご

「まさか・・・『湖付近にてエックス確保』

うわっ、確保されてるし・・・!!」

水銀燈

「あの人バカね・・・何もせずに捕まってるし・・・!!」

ネス

「ロックマンx組情けなさすぎる・・・!!」

薔薇水晶

「あら？この行列は・・・」

薔薇水晶は姫の屋敷にたどり着く。

兵士A

「ここからは立ち入り禁止だ。『黒い服』を着ている者以外は中に入る事が出来ない」

薔薇水晶

「そう・・・」

薔薇水晶は入るのを諦めた。

薔薇水晶

「何なのかしら一体・・・？」

その頃、姫が住む城にて・・・。

姫（役：キャロ・ル・ルシエ）

「これはこれは、またお悩みの人がいるようですね・・・」

姫は城から出、人々を助けようとする・・・。

姫の前には・・・。

住民A

「姫様！お願いします！どうか、この米を・・・！！」

住民B

「私達を助けて下さい・・・!!」

姫（役：キャロ・ル・ルシエ）

「焦らないで下さい・・・この秘法、『時の鏡』があれば」

姫は時の鏡を取り出す・・・。

姫（役：キャロ・ル・ルシエ）

「・・・!!」

姫は呪文を唱える。

何と、沢山の米俵が姫と住民達の間に出現した！

住民A

「あ、ありがとうございます!!」

住民B

「このご恩は一生、忘れません!!」

姫（役：キャロ・ル・ルシエ）

「いいですよ・・・」

姫は微笑む。

その時、米俵が出現したと同時に謎の装置が出現した・・・。

姫の屋敷に、賞金減額装置が設置された・・・。

プルルル

ゼロ

「何だよ、いきなり・・・！？『ミッション1』！？」

蒼星石

「『残り100分までに姫の屋敷にある賞金減額装置2台のレバーを両方下ろさないと』、

咲

「『以降の賞金単価が100円となる』ええっ！？これはヤバイって！！」

水銀燈

「『屋敷に入る条件は、黒服の着用あるいはワラ・果物の種のどちらかの持参』

・・・何この条件は・・・？」

このミッションでは住民からワラ・果物の種をもらう事になる。譲渡してくれる住民は限られており、入場には順番待ちも必要。

残る逃走者は、

水銀燈、金糸雀、翠星石、蒼星石、真紅、雛莓、薔薇水晶、咲、祈里、なのは、フェイト、
はやて、マリオ、ネス、ヤング、ソニック、アルル、アミティ、リ

んご、ゼロの20人・・・。

マリオ

「どうしようか・・・ここは行かない方が・・・」

ゼロ

「行くしかねえだろ、こりゃ・・・!!」

ヤング

「阻止する為にも、行かなければ・・・!!」

蒼星石

「行きます・・・!!」

翠星石

「難しそудだから行きませんですう・・・」

祈里

「これは行かないといけないよ・・・!!」

なのは

「どうしよう・・・行こう」

アルル

「決めた、行く!!」

結構の数の逃走者が、ミッションに参加する様だ・・・。

雛苺

「もうちょつと楽かとおもつてたよ、このゲームは・・・
しかもめんどくさいミッションも出てくるしさあ・・・」

雛苺はトボトボとハンターに気をつけながら歩く。

だが、彼女の近くに、ハンター・・・。

> i 3 6 1 5 0 — 4 2 6 0 <

雛苺

「ここなら見つからないかも・・・ってハンター!？」

ハンター

「!」

雛苺の声で、見つかった・・・。

雛苺

「ぜつたいに逃げ切つてやるんだから!!!」

雛苺は一目散に逃げる。

しかし彼女がハンターを振り切れる訳が無い。最早、逃走不可能・・・。

雛苺

「いや!!!」

ポンッ

> i 3 6 1 5 1 — 4 2 6 0 <

雛苺

「もういやゝ．．．!!」

ローゼンメイデンのドール、早くも散る．．．。

ブルルルル

マリオ

「何だ何だ．．．!!?」『忍者の隠れ岩にて雛苺確保』

コイツは結構早く捕まりそうな予感がしたんだよねゝ．．．」

真紅

「雛苺確保．．．!!残り19人!?!」

ヤング

「雛苺も確保されたのか．．．!!」

アルル

「あの子にはもうちょっと頑張つて欲しかった．．．!!」

果たして、賞金減額を阻止出来るのか!?

ミッション1発動！（後書き）

果たして、賞金減額を阻止出来るのか！？

（賞金のおかしいというツッコミはなしでお願いします）

賞金減額を阻止せよ！（前書き）

僕が特にお気に入り作品はローゼンメイデンとリリカルなのはとプリキュアです。

スマブラとぶよぶよは少しだけ好きな作品です。

ロックマンXとドラゴンボールとソニックシリーズはあまり知りません。

というかぶっちゃけ言って興味がありません。

少し関係無い話でした。では本編に戻します。

残り100分までに姫の屋敷にある賞金減額装置2台のレバーを両方下ろさないと、

以降の賞金単価が100円となる。屋敷に入る条件は、黒服の着用あるいはワラ・果物の種のどちらかの持参。

このミッションでは住民からワラ・果物の種をもらう事になる。譲渡してくれる住民は限られており、入場には順番待ちも必要。

賞金減額を阻止せよ！

ヤング

「着いたな・・・」

ヤング、姫の屋敷前に到着・・・。

兵士

「そこのお前！果物の種は持って来ているのか？」

ヤング

「果物の種・・・？」

屋敷に入るには、ワラ、果物の種のどちらかが必要だ・・・。

兵士

「持って来てないなら出直して来るんだな」

ヤング

「はあ・・・」

ヤングは果物の種を探しに行った。

ヤング

「果物の種か・・・ってかすぐ近くなのによ・・・！！
そんな物持って行く暇ねえんだよ・・・！！」

アルル

「多分もうすぐ着くよね・・・あっ！あれかな・・・!!」

その時、ヤングがアルルに話しかけてきた。

ヤング

「アルル？姫の屋敷に入るにはワラか果物の種が必要だって・・・」

アルル

「わかってるよ・・・今誰かに貰いに行く途中だって・・・」

ヤング

「本当か・・・」

アルルはそのまま果物の種がワラを探しに行った。

マリオ

「しかし忍者の隠れ里なのに忍者が一人もいねえな・・・」

マリオ、この里を観光する様にエリア内を下見する・・・。

真紅

「住民が近くにいないわ・・・冗談じゃない・・・!!」

真紅、彼女も行く様だ・・・。

ゼロ

「ん？果物の種か・・・おい、そこのお前等」

ゼロ、住民を発見する・・・。

住民 A

「何ですか・・・？もしかして」

ゼロ

「果物の種欲しい・・・！！だからくれ」

住民 A

「無理ですよ・・・！！これは姫様に持って行く物ですから・・・！！」

ゼロ

「どうしてもか・・・！？」

住民 A

「どうしてもです・・・！！」

ゼロ

「・・・仕方ない、ここは諦めよう」

ゼロは住民に礼を言い、果物の種を諦めた。

ゼロ

「ああっ、クソッ！！」

牢獄 D E トーク

雛莓

「もうしょっぱなから3人もかくほされてるよ．．．」

エックス

「俺達つて、不運だよな．．．」

雛莓

「．．．所できくけどね。アクセル、なにしにきたの？」

アクセル

「おい！雛莓、何て事を．．．！！」

雛莓

「しんさんのくせに何であんな情けないつかまりかたしたの．．．！！？」

アクセル

「あれは、たまたま．．．」

咲

「あつ、ハンターにいる．．．！！」

咲はすぐに身を隠す。

咲

「．．．って？あれソニックじゃん．．．」

咲、ソニックが遠い所で走っている所を発見する・・・。

咲

「無闇に動いたら捕まるって・・・!!」

ゼロ

「チツ、ここも無しか・・・!!」

ゼロ、果物の種を上手く集められない・・・。

そんな不運な彼の近くに、ハンター・・・。

> i 3 6 2 0 0 — 4 2 6 0 <

ゼロ

「他を当たるか・・・ってハンター!？」

ハンター

「!」

見つかった・・・。

ゼロは一目散に逃げる。

しかし彼がハンターを振り切れる訳が無い。最早、逃走不可能・・・。

ゼロ

「つぎやゝ!!」 ポンッ

> i 3 6 2 0 2 — 4 2 6 0 <

ゼロ

「マジか・・・!!これはキツイって・・・!!」

俺等は貧乏神が背後に付いてるしか思えないって・・・!!」

ロックマン×組、全滅・・・。

ブルルルル

真紅

「うるさいわね・・・!!」『ゼロ確保』何やってんのよあの人・・・!!」

マリオ

「アイツ逃げ切るんじゃないかったのかよ・・・!!?」

はやて

「もう18人って・・・!!てかあの人等情けなさすぎるわ・・・!!」

ヤング

「あれか・・・!!?おい!!」

ヤング、住民を発見・・・。

住民B

「何ですか・・・？」

ヤング

「あつ、果物の種・・・それ分けてくれ！」

住民B

「いいですよ・・・少し重たくて誰かに手伝って貰おうと思ってましたから・・・」

ヤング

「よし・・・！！果物の種代わりに持って行かせ・・・！！」

ヤングリンク 果物の種獲得

ヤング

「あとは、これを持って姫の屋敷に行くって事だよな・・・！！」

なのは

「あれっ・・・？あれヤング君？」

なのは、ヤングを発見する・・・。

なのは

「ここは分けて貰いたい所だけど、住民から貰った物だしね・・・」

なのは、上手く獲得出来ない・・・。

蒼星石

「あれ・・・？住民じゃないですか・・・？」

蒼星石、住民を発見・・・。

蒼星石

「ワラを持ってますね・・・すみません！」

住民C

「はい・・・？何でしょうか・・・？」

蒼星石

「それ、持つの厳しくありませんか・・・？」

住民C

「・・・はい、少し厳しくて・・・良かったら代わりに・・・」

蒼星石

「勿論です！引き受けましょう」

住民C

「あつ、はい・・・！！ありがとうございます・・・！！」

蒼星石 ワラ獲得

蒼星石

「見てて下さいよ．．．!!」

蒼星石は姫の屋敷へと向かった。

祈里

「もう18人か．．．何か確保ペースが早い様な．．．」

祈里、確保ペースに疑問する．．．。

牢獄DEトーク

雛莓

「ロックマン×組全滅って．．．あんたらなにしにきたの．．．! ? 本当に」

ゼロ

「あれは手違いだ．．．!!」

雛莓

「どこらへんだよ．．．! ?」

果たして、姫の屋敷に入る事が出来るのか! ?

賞金減額を阻止せよ！（後書き）

果たして、姫の屋敷に入る事が出来るのか！？

ミッション1終了！（前書き）

果たして、ミッションは成功なのか・・・！？

ミッション1終了！

ミッション1終了！

ソニック

「早く終わってくれよ・・・！！」

ソニック、こちらは人任せの様だ・・・。

真紅

「あれ・・・！？見つかったわ」

真紅、住民を発見・・・。

真紅

「ちよつと・・・果物の種持つてる？」

住民D

「持ってますけど・・・どうかしたんですか？」

真紅

「私が代わりに持って行くから、それ頂戴・・・！！」

住民D

「代わりにですか・・・助かりました！ありがとうございます！ではこれを！」

真紅

「やったわ・・・!!」

真紅 果物の種獲得

真紅

「早く姫の城に持って行かないと・・・!!」

ヤング

「屋敷に着いた・・・って行列長え・・・!!」

ヤングは屋敷の前に着くが、住民の行列でいっぱいだ・・・。

ヤング

「おい、冗談じゃねえぞ・・・!!これを待たなきゃ行けねえのかよ・・・!?!?」

ヤング、少し急かし気味だ・・・。

翠星石

「一体どれだけかかるんですか・・・?」

翠星石は、退屈がっている・・・。

その時。

ブルルルル

翠星石

「えっ・・・！？何なんですう・・・！？

『ミッシヨン途中経過』・・・」

ネス

「『現在果物の種を持っている者はヤングリンク、真紅の2人。
ワラを持っている者は蒼星石の1人。まだ装置には触れていない』

ええっ！？ちょっと、早くしてよ・・・！！」

ソニック

「この野郎・・・さっさとしろよ・・・！！」

ソニック

「めんどくさい・・・ていうか動きたく無いし・・・！！」

ソニック、何故か動く気は無さそうだ・・・。

しかし、彼の近くに、ハンター・・・。

ハンター

「・・・」

ソニック

「かったりいけど少し移動するか・・・」

ソニック、移動を始める。が・・・。

ハンター

「！」

見つかった・・・。

ソニック

「・・・ぎゃえゝ!!」 ポンッ

> i 3 6 2 1 6 — 4 2 6 0 <

ソニック

「こ・・・この俺が・・・油断しただと・・・!？」

自分だけ楽しようとした、罰だ・・・。

ブルルルル

真紅

「何よ、こんな時に・・・!!」『湖付近にてソニック・ザ・ヘッジ
ホッグ確保』

・・・あの人ったら・・・!!」

蒼星石

「確かあの人、自分だけ楽する所を見た様な・・・
そういう人は罰が当たるんですよ・・・!!」

アミティ

「ええゝ!? 捕まったのゝ!?」

フェイト

「どうしてくれるのよ・・・!?」

逃走中の大本命がここで散るなんて絶対におかしいわよ・・・!
」

ヤング

「よし、行列は空いた・・・!!」

ヤングは果物の種を持ち、姫の屋敷内へと入った。

最上階には、装置が2つ設置されている・・・。

ヤング

「あつ、レバー2つあるし・・・!! 誰か来てくれ・・・!!」

その時、蒼星石がヤングの近くに着いた・・・。

蒼星石

「ヤングさん・・・! 遅れてしまってますいません」

ヤング

「いって・・・後、それよりこの装置のレバーを降ろそう・・・」

蒼星石

「はい・・・!!」

2人は両方のレバーを降ろす。

賞金減額阻止装置 起動 残り1個

ヤング

「後、もうひとつあるからそれも降ろしてしまおうぜ・・・!!」

蒼星石

「はい・・・!!」

2人はもうひとつの装置の両方のレバーを降ろす。

> i 3 6 2 1 7 — 4 2 6 0 <

ヤング

「おっしゃ・・・!! 蒼星石サンキュー・・・!!」

蒼星石

「いいですよ．．．!!後もつすぐ降りましょう．．．!!」

ヤング

「それもそうだな．．．!!」

2人は姫の屋敷から出た。

プルルル

翠星石

「あれ？まさか．．．『ミッションクリア情報』やった〜！」

真紅

「『ヤングリンク、蒼星石の活躍によってミッションクリア』
私が着く前にクリアしちゃってるじゃない．．．!!
これ、どうしよう．．．」

祈里

「ええ〜！？クリアしたのはいいけど．．．」

アルル

「ボク達が着く前にクリアしちゃったんだ．．．でも嬉しいよ」

牢獄DEトーク

雛苺

「あんた・・・ほんつとに・・・ほんとに情けなさすぎる・・・！」

ソニック

「あれは、おい、雛苺・・・わかってくれよ・・・!!」

雛苺

「いやよ!!反省して!!」

ソニック

「そんなあゝ・・・!!」

ソニック、雛苺に説教されていた・・・。

ミッション1終了！（後書き）

ソニックは雛苺に説教されていた・・・。

だが、ミッションは成功した・・・。

残る逃走者は、

水銀燈、金糸雀、翠星石、蒼星石、真紅、薔薇水晶、咲、祈里、なのは、フェイト、はやて、マリオ、ネス、ヤング、アルル、アミテイ、りんごの17人・・・。

ミッション2発動！（前書き）

新たなミッションが発動される・・・！！

ミッション2発動！

祈里

「ミッション1は終わったね・・・絶対に逃げ切りたい・・・!!」

祈里、逃走成功を狙う・・・。

真紅

「あの種は返してきたわ・・・本当辛いし・・・!!」

真紅は住民に種を返した様だ・・・。

ヤング

「あつ、ハンターいるって・・・!!」

ヤングはすぐに身を隠す。

その頃、忍者は・・・。

忍者（役：エリオ・モンディアル）

「時の鏡・・・あれは何かの手がかりになりそうだ・・・!!」

忍者は姫の屋敷へと忍び込む。

忍者（役：エリオ・モンディアル）

「・・・!!誰か来た・・・!!ここは何かの仕掛けでも作ってお

くか・・・」

そう言うと同時に忍者は煙幕弾を床に投げ、謎の装置を設置した・・・。

忍者（役：エリオ・モンディアル）

「いったん退散だ・・・！！」

忍者は瞬間移動の術を使い、姫の屋敷から脱出した・・・。

ブルルルル

ヤング

「だからうるせえって・・・！！携帯・・・！！」

『ミッシヨン2』！？」

真紅

「『姫の屋敷の最上階に写真認証装置が設置された』

写真・・・？」

金糸雀

「『他の逃走者との2ショット写真を撮り送信しないと強制失格』

嘘かしら！？何でかしら！？」

はやて

「誰かと会い2ショット写真を撮れっちゅうのか・・・」

牢獄DEトーク

雛莓

「2ショット写真ね．．．」

ソニック

「こうなったら蒼星石と祈里に頑張ってほしい．．．」

アクセル

「俺は咲とヤングだな．．．」

雛莓

「出たよ、『かわりにがんばってほしい』願い」

アミティ

「2ショット写真ね．．．ってハンターいるじゃん．．．!?!?」

アミティはすぐに身を隠す．．．。

ハンター

「．．．」

しかし、ハンターは、まだ気づいていない．．．。

アミティ

「良かった．．．いったん動こう」

アミティはハンターに気づかれるようか、気づかれないようか―か
八か動く……。

だが……。

ハンター

「!」

見つかった……。

アミティ

「よし、いないったら……ってハンター!?!」

ハンター

「!」

アミティは一目散に逃げる。

しかし彼女がハンターを振り切れる訳が無い。最早、逃走不可能……。

アミティ

「ひぎゃあ!!」 ポンッ

> i 3 6 2 6 9 — 4 2 6 0 <

アミティ

「こんな所で終わるの……!?!?うわあ、酷過ぎる……!?!」

ブルルルル

アルル

「だから何・・・！？『草原付近にてアミティ確保』
ええゝ！？捕まったのゝ！？」

蒼星石

「アミティさんが捕まった・・・！！」

ヤング

「誰かいないのか・・・！？あつ、翠星石・・・！！」

翠星石

「何ですう・・・？」

ヤング、翠星石と合流・・・。

ヤング

「一緒にあつたから写メ撮ってくれ・・・！！」

翠星石

「勿論です・・・！！」

ヤングは携帯を取り出し、2ショットで撮る。

ヤングリンク、翠星石 ミッションクリア

ヤング

「送信・・・よし・・・後の奴等は・・・!？」

翠星石

「あつ、ハンターきてるです・・・!！」

ヤング

「マジでか・・・!？」

2人は咄嗟にすぐに身を隠す。

アルル

「ちよつと・・・誰かいないの・・・!？」

その時、蒼星石と会った・・・。

蒼星石

「アルルさん・・・？丁度良かったですね・・・!！」

蒼星石は急かし気味だ・・・。

アルル

「2人なんだから、一緒に写真撮ろうよ」

蒼星石

「そうですね・・・!!」

蒼星石は携帯を取り出し、2ショットで撮る。

蒼星石、アルル・ナジャ ミッションクリア

蒼星石

「送信・・・出来ました・・・!!」

アルル

「良かった・・・!!それじゃ」

はやて

「なのはちゃんはどこや・・・?」

はやて、なのはを探しにさ迷う・・・。

マリオ

「チッ、めんどくさいぜ・・・!!」

マリオ、この男はあまり動きたく無い様だ・・・。

薔薇水晶

「あつ、ハンターいるいる・・・!!」

薔薇水晶はすぐに身を隠す・・・。

りんご

「誰でも良いから来てよ・・・！！—大事なんだからさあ・・・！」

りんご、逃走者を探す・・・。

果たして、全員、2ショット写真を撮れるのか！？

ミッション2発動！（後書き）

果たして、全員、2ショット写真を撮れるのか！？

2ショット写真を撮れ！（前書き）

果たして、全員、2ショット写真を撮れるのか！？

2ショット写真を撮れ！

残り80分までに全員2ショット写真を撮らないと、強制失格となる・・・！！

なのは

「うーん、何か難しい・・・！！誰でも良いから来て・・・！！」

なのは、ハンターに怯えて動けない・・・。

水銀燈

「早く誰か来なさいよ・・・！！さもないと・・・！！」

水銀燈は誰かが来ない事に苛立っている・・・。

ネス

「おうわ、ここにもハンターいるじゃん・・・！！」

ネス、上手く隠れ、やり過ごす・・・。

翠星石

「クリアしたのは良いけど、この後どうしよう・・・！！」

翠星石は隠れ場所を探している・・・。

りんご

「こうなったら誰かに電話しよう・・・！！」

りんごは電話を用意する。

りんご

「えっと・・・誰に・・・ってハンター!？」

ハンター

「!」

見つかった・・・。

> i 3 6 2 8 7 — 4 2 6 0 <

りんご

「うわあ、最悪だ〜!!!!!!」

りんごは一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能・・・。

りんご

「ぐわあ〜!!」 ポンッ

> i 3 6 2 8 6 — 4 2 6 0 <

りんご

「マジで〜・・・!?! 私不幸すぎる・・・!!」

ブルルルル

蒼星石

「何ですか・・・!!? 『忍者の町にてあんどぅりんご確保
りんごさんまで・・・!!!』」

咲

「もう15人・・・!!減るスピードが異常じゃない・・・!!!」

アルル

「今度はりんご捕まった・・・ってハンター!?!」

近くにいたハンターが、アルルを追う・・・。

アルル

「いぎゃゝ!!!」

アルルは一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能・・・。

アルル

「ふぎゃあゝ!!!」 ポンッ

> i 3 6 2 8 8 — 4 2 6 0 <

アルル

「もういやだ・・・最悪すぎる・・・!!折角ミッシェンクリアしたのに・・・!!!」

この世は全てが上手く行くとは限らない・・・。

プルルル

翠星石

「何ですう．．．！？『アルル・ナジャ確保』
ま、また確保情報です！？」

フェイト

「もう14人．．．これはおかしいわ．．．！！」

金系雀

「誰か来てくれないかしら．．．！？」

金系雀は近くの曲がり角で待っている．．．。

その時、山吹祈里が金系雀の元に走って来た．．．。

祈里

「金系雀ちゃん．．．！？早く撮ろうよ．．．！！」

金系雀

「あつ、助かった．．．！！じゃあ早速撮ろうかしら．．．！！」

金系雀は携帯を取り出し、2ショット写真を撮る。

金系雀、山吹祈里 ミッションクリア

金系雀

「助かったかしら・・・」

祈里

「良かったよ・・・!!」

2人は一安心する・・・。

牢獄DEトーク

雛苺

「何もせずおわってるじゃない・・・!!」

アルル

「ええっ!? ボクだってちゃんと・・・」

雛苺

「・・・まあいいよ・・・」

雛苺は怒る気が失せた様だ・・・。

これまでクリアしている者は、

金糸雀、翠星石、蒼星石、祈里、ヤングの5人・・・。

まだクリアしていない者は、

水銀燈、真紅、薔薇水晶、咲、なのは、フェイト、はやて、マリオ、
ネスの9人・・・。

マリオ

「残りは14人・・・誰か来てくれ・・・!!」

その時、ネスがマリオの元へ向かって来た・・・。

ネス

「マリオ・・・!!どうしたの?早く写真撮ろっよ・・・!!」

マリオ

「わかってらあ・・・!!ちょっと待てよ・・・」

マリオは携帯を取り出し、2ショット写真を撮る。

マリオ、ネス ミッションクリア

マリオ

「ふう・・・もう強制失格のミッションはこりこりだぜ・・・!!」

ネス

「ああ、しんどかった……!!」

2人は壁にもたれかかる……。

その時、咲がマリオ達の元に向かって来た……。

咲

「マリオ君……？ネス君……写真撮ろうよ……!!」

マリオ

「そうか……お前クリアしてなかったんだな……ちょっと待てよ」

咲

「いいよ、こっちが撮るから」

咲は携帯を取り出し、2ショット写真を撮る。

日向咲 ミッションクリア

咲

「やった……!!成功ナリ……!!」

牢獄DEトーク

アクセル

「こうなったら皆を応援するか・・・咲、ヤング、頑張れ!!」

ゼロ

「蒼星石! 翠星石! ネス! ファイトだぜ!!」

エックス

「何で終盤に入った様な言い方してんだよ・・・!?!」

残る逃走者は、

水銀燈、金糸雀、翠星石、蒼星石、真紅、薔薇水晶、咲、祈里、
のは、フェイト、
はやて、マリオ、ネス、ヤングの14人・・・。

果たして、まだクリアしていない者は無事成功出来るのか!?

2ショット写真を撮れ！（後書き）

残る逃走者は、

水銀燈、金糸雀、翠星石、蒼星石、真紅、薔薇水晶、咲、祈里、
のは、フェイト、
はやて、マリオ、ネス、ヤングの14人・・・。

果たして、まだクリアしていない者は無事成功出来るのか！？

ミッション2終了!しかし・・・。(前書き)

残るは、6人・・・。

ミッション2終了!しかし・・・。

ヤング

「まだクリアしてねえのは後6人・・・誰か来てくれ・・・!!」

ヤングは重複する気持ちで誰かを待っている様だ・・・。

牢獄DEトーク

雛苺

「思ったんだけどさ・・・あんたら何しにきたの? というかエックスとかゼロとかアクセルとか誰?」

雛苺はロックマンx組を知らない様だ・・・。

アクセル

「お前知らねえのかよ・・・!!?」

真紅

「なのは・・・?」

なのは

「真紅ちゃん・・・!?!早く写真撮ろっよ・・・!!!」

真紅

「そんなの決まってるじゃない・・・!!」

真紅は携帯を取り出し、2ショット写真を撮る。

真紅、高町なのは ミッションクリア

真紅

「あれ・・・？誰か来たわ・・・!!」

その人物とは・・・。

はやて

「なのはちゃん!!」

八神はやてだ・・・。

はやて

「一緒に写真撮ろうや、時間無いから・・・!!」

なのは

「勿論・・・!!」

はやては携帯を取り出し、2ショット写真を撮る。

八神はやて ミッションクリア

はやて

「危機一髪やゝ・・・」

水銀燈

「誰か来なさいよ・・・!!このノロマ共が・・・!!」

水銀燈はついに罵声を発言した・・・。

その時、フェイトが水銀燈の元へ走って来た・・・。

フェイト

「水銀燈・・・？早く写真撮ろうよ・・・!!」

水銀燈

「わかってるわよ・・・!!はい携帯」

水銀燈は携帯を用意し、写真を撮る。

水銀燈、フェイト・T・ハラOWN ミッションクリア

水銀燈

「やっとクリアしたわ．．．ああ、精々した．．．!!」

フェイト

「残ってる子は誰なの．．．!？」

薔薇水晶

「冗談じゃないわ．．．!!この中を彷徨えつての．．．!？」

唯一、2ショット写真を撮っていない、薔薇水晶．．．。

その時．．．。

ハンター

「!」

見つかった．．．。

薔薇水晶

「誰か来て．．．ってハンター!？」

薔薇水晶は一目散に逃げる。

しかし彼女がハンターを振り切れる訳が無い。最早、逃走不可能．．．。

薔薇水晶

「あういゝ!!」

ポンッ

> i 3 6 3 1 7 — 4 2 6 0 <

薔薇水晶

「誰も来ないとか・・・マジで酷過ぎるわ・・・!!」

不運な、薔薇水晶・・・。

ブルルルル

ヤング

「何だ・・・!!?」忍者の町にて薔薇水晶確保」

薔薇水晶、多分間に合わなかったんだっけな・・・!!」

ネス

「『更に、全員2ショット写真を撮った為強制失格者は無し』

多分薔薇水晶で捕まって終わったんだと思うよ・・・」

その頃、忍者達は・・・。

忍者（役：エリオ・モンディアル）

「敵軍はここにはいない・・・姫の秘法を何としても奪い取ってみせる・・・!!」

忍者はある手がかりを探す為に必死だ・・・。

女忍者（役：ティアナ・ランスター）

「・・・！？敵が攻めてきたわ・・・！！」

忍者（役：エリオ・モンディアル）

「本当か・・・！？この爆竹で一氣にぶっ倒すぞ！！」

女忍者（役：ティアナ・ランスター）

「ええ・・・！！」

2人は爆竹を取り出し、敵軍に投げつける・・・！！

敵軍

「ぐわあああああゝ！！！！！！」

敵軍は炎に包まれた・・・。

忍者（役：エリオ・モンディアル）

「・・・他にも敵軍がいるかも知れない。

僕達の仲間に笛で敵軍を知らせる様にと伝えてくる・・・！！」

女忍者（役：ティアナ・ランスター）

「くれぐれも見つかからない様にね・・・！！」

そついうと同時に、忍者は他の仲間に伝えに行った・・・。

ブルルルル

真紅

「何・・・！？『ミッション3』！？」

マリオ

「『君達逃走者は住民達に疑いをかけられた』

はあ！？また全員行動かよ！？」

金糸雀

「『残り60分までに奉行に右腕を見せ、疑いを晴らさなければ』」

はやて

「『ゲーム終了まで永遠に疑われる事になる』・・・！！」

ヤング

「はあ！？今度は疑いを晴らせかよ・・・！？」

牢獄DEトク

薔薇水晶

「ああ、悔しい・・・！！」

薔薇水晶はトボトボ牢獄に入る。

雛苺

「おいしいね・・・」

ゼロ

「ああ、暇だ・・・！！」

残る逃走者は、
水銀燈、金糸雀、翠星石、蒼星石、真紅、咲、祈里、なのは、フェ
イト、はやて、
マリオ、ネス、ヤングの13人・・・。

果たして、疑いを晴らす事が出来るのか！？

ミッション2終了!しかし・・・。(後書き)

残る逃走者は、

水銀燈、金糸雀、翠星石、蒼星石、真紅、咲、祈里、なのは、フェイト、はやて、マリオ、ネス、ヤングの13人・・・。

果たして、疑いを晴らす事が出来るのか!?

疑いを晴らせ！（前書き）

果たして、全員、疑いを晴らせれるのか！？

疑いを晴らせ！

住民は見つけても不審がるだけで騒がないが、
忍者達に見つけられると笛で通報される。
通報部隊出動だ・・・。

真紅

「通報部隊出動ね・・・！！これは早めに行つといた方がいいわ・・・！！！」

ヤング

「ええ〜・・・！？これは絶対に行かなきゃなんねえんだろ・・・！？」

ネス

「マジで・・・！？通報されたくないし・・・！！」

動けば、忍者やハンターに見つかるリスクが高まる・・・！！

咲

「あつ、ハンターいる・・・！！」

咲はすぐに身を隠す。

咲

「曲がり角にいれば見つからないかも・・・!?!」

その時・・・。

忍者

「!ピーッ!!!!!」

忍者に、見つかった・・・。

> i 3 6 3 5 8 — 4 2 6 0 <

咲

「・・・!?!ちよつ、待ってよ・・・!?!」

ハンター

「!」

見つかった・・・。

咲

「ぎゃあああああゝ!!いやあゝ!!」

咲は一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能・・・。

咲

「ふんぎゃあゝ!!」

ポンッ

> i 3 6 3 5 9 — 4 2 6 0 <

咲

「うわあ、絶不調ナリ・・・!!」

ソフトボール部のエース、ここに散った・・・。

ブルルルル

ヤング

「何だよ・・・!?!」忍者の通報にて日向咲確保
はあ!? 咲が捕まったのかよ!?!」

翠星石

「ソフトボール部のエースが捕まっちゃったの・・・!?!」

蒼星石

「意外です・・・!! もう12人ですか・・・!?!」

咲の確保に驚きを見せる、逃走者達・・・。

ネス

「あつ、近くだ・・・!! 助かった」

ネス、偶然にも奉行の元へ到達した・・・。

> i 3 6 3 6 0 — 4 2 6 0 <

奉行（役：シグナム）

「む、お前は・・・敵軍か？」

ネス

「いえ、違います・・・！！信じて下さい・・・！！」

奉行（役：シグナム）

「なら右腕を見せろ」

ネス

「はい・・・！！」

ネスは右腕を見せる。

奉行（役：シグナム）

「・・・敵軍では無さそうだ。お前を信じよう」

ネス

「ありがとうございます・・・！！」

ネス ミッションクリア

ネス

「やったあ・・・！！」

ネスは奉行の近くから離れた・・・。

牢獄DEトーク

咲

「うわあ、最悪ナリ・・・!!」

咲はトボトボと牢獄に入る・・・。

薔薇水晶

「咲・・・こちらだって同じよ」

雛苺

「わたしなんかめっちゃじょばんで確保されたんだけどね・・・」

咲

「皆同じなんだね・・・まあ、ネガティブになるのは良くないよね
!」

咲は元気を出す。

翠星石

「あつ、ハンター・・・!!」

翠星石は急いで逃げる。

ハンター

「……」

しかし、ハンターは、まだ気づいていない……。

翠星石

「良かったです……」

しかし……。

忍者

「！ピーッ！！！！！」

忍者に、見つかった……。

翠星石

「！？うそですう！！！」

ハンター

「！」

見つかった……。

翠星石

「いやですう！！！！こんな時に……！！！」

翠星石は一目散に逃げる。

しかし彼女がハンターを振り切れる訳が無い。最早、逃走不可能・・。

翠星石

「キャア〜!!」 ポンッ

> i 3 6 3 6 1 — 4 2 6 0 <

翠星石

「ま、負けちゃったですう・・!!」

ローゼンメイデンの第3ドール、ここに散る・・。

プルルル

マリオ

「今度は何だ・・!!? 『忍者の通報によって翠星石確保』
ついに翠星石までも・・!!?」

ヤング

「もう11人・・!!どうなってんだよコレ・・!!?」

蒼星石

「そんな・・!!捕まったんですか・・!!?」

はやて

「たどり着いたわ・・・!!」

八神はやて、奉行の元にたどり着く・・・。

奉行（役：シグナム）

「お前は・・・敵軍か？」

はやて

「違いますって・・・!!信じて下さいよ・・・!!」

奉行（役：シグナム）

「なら右腕を見せろ」

はやて

「はあ・・・」

はやては服の袖を捲くり、右腕を見せる。

奉行（役：シグナム）

「・・・よし分かった。お前の言葉を信じよう」

はやて

「勿論ですよ・・・!!」

八神はやて ミッションクリア

はやて

「もう……しんどかったわ……!!」

残る逃走者は、

水銀燈、金糸雀、蒼星石、真紅、祈里、なのは、フェイト、はやて、マリオ、ネス、ヤングの11人……。

果たして、疑いを晴らす事が出来るのか!?

疑いを晴らせ！（後書き）

残る逃走者は、

水銀燈、金糸雀、蒼星石、真紅、祈里、なのは、フェイト、はやて、
マリオ、ネス、ヤングの11人・・・。

果たして、疑いを晴らす事が出来るのか！？

上手く忍者から免れる（前書き）

残る逃走者は11人・・・。

（今回は長めです。）

上手く忍者から免れる

ヤング

「チッ、どこいてもいるじゃん、忍者とハンターめ……!!」

ヤングは身を隠しながら進んでいく。

真紅

「うっとうしいわね……!! 忍者は行動力が凄いわ……!!」

真紅、思い通りに動けない……。

マリオ

「よっしゃ……!! 忍者からやり過ごせた……!!」

マリオは身を隠しながら奉行の元に進んで行く。

奉行（役：シグナム）

「お前は……敵軍か？なら……」

マリオ

「俺は敵軍じゃないって……!!」

奉行（役：シグナム）

「なら右腕を見せろ」

マリオ

「ハイハイ……」

マリオは服の袖を捲くり、右腕を見せる。

奉行（役：シグナム）

「……どうやら敵軍では無さそうだ。お前の言葉を信じよう」

マリオ

「助かったぜ……!!」

マリオ ミッションクリア

マリオ

「よっしゃ、ミッションクリアだ……ってあれ水銀燈？」

マリオは奉行の元に水銀燈が走って来る所を発見する。

水銀燈

「たどり着いたわ……マリオ？」

マリオ

「奉行に右腕を見せるんだろ？」

水銀燈

「それはわかってるわ……」

水銀燈は奉行の元にたどり着く。

しかし、不幸な事に、忍者が2人に忍び寄る・・・。

> i 3 6 4 2 1 — 4 2 6 0 <

忍者

「!ピーツ!!!!!!」

見つかった・・・。

マリオ

「・・・!? 忍者がよ!? こんな時に・・・!!」

水銀燈

「本当・・・!? 何で一大事な時に忍者が来るのよ!?」

ハンター

「!」

更に、見つかった・・・。

2人は一目散に逃げる。

ハンターの標的は・・・。

水銀燈

「いやあゝ!! こっち!?」

水銀燈だ・・・。

マリオ

「!?!? 水銀燈の方が追われてやがるって……!?!?」

水銀燈

「くるなあゝ!?!」

その間にマリオは別の場所に逃げる。

水銀燈

「くっ……!!!しつこいわね……!?!」

水銀燈はそのまま逃げ続ける。

しかしハンターとの距離がどんどん縮められて行く為、最早、逃走不可能……。

水銀燈

「ああうっ!!」 ポンッ

> i 3 6 4 2 2 — 4 2 6 0 <

水銀燈

「何故……!?!?ここで終わるの……!?!?ああ、悔しい……!?!」

上手く、行かなかった様だ……。

プルルルル

マリオ

「あつ、『忍者の通報によって水銀燈確保』……!!」

フェイト

「減るスピードが異常じゃない……!!」

金系雀

「水銀燈も捕まったかしら……」

ネス

「うわあ、忍者厄介すぎるよ……!!」

はやて

「水銀燈確保か……」

牢獄DEトーク

りんご

「もう10人……確保ペースが半端ないよ……」

薔薇水晶

「もしかしたらまた……」

翠星石

「そこまで!!ストップです!!」

雛莓

「ヒナだつてみんなの逃走成功をねらつてゐるよ」

エックス

「誰でも良いから逃げ切れ・・・!!」

なのは

「あつ、こつちだ・・・!!」

なのはは自分の勘で進んで行く。

なのは

「あつ、行き止まりだ・・・!!」

勘は外れた・・・。

蒼星石

「あつ、着きました・・・!!早く早く」

蒼星石は奉行の元にたどり着く。

奉行（役：シグナム）

「お前は・・・敵軍か？」

蒼星石

「違います・・・!!僕は敵軍ではありませんよ・・・!!」

奉行（役：シグナム）

「なら右腕を見せろ」

蒼星石

「はい・・・」

蒼星石は服の袖を捲くり、右腕を見せる。

奉行（役：シグナム）

「・・・敵軍では無さそうだな。お前の言葉を信じよう」

蒼星石

「ありがとうございます・・・!!」

蒼星石 ミッションクリア

蒼星石

「助かりました・・・!!」

蒼星石は奉行から離れた。

フェイト

「よし、ここなら・・・!!」

フェイトはすぐに身を隠す。

しかし、忍者がフェイトに忍び寄る・・・。

フェイト

「あつ、忍者だ・・・!!」

フェイトは忍者に反応し、すぐに逃げる。

しかし、逃げた先に、ハンター・・・。

> i 3 6 4 2 3 — 4 2 6 0 <

フェイト

「ハンター!？」

ハンター

「!」

見つかった・・・。

更に・・・。

忍者

「!ピーッ!!!!!」

更に、見つかった・・・。

フェイト

「!?!ここは引き返すわ!!」

フェイトは一目散に逃げる。が・・・。

ハンター

「!」

後方からも、ハンターが迫り来る・・・。

フェイト

「!?!?また・・・!?!」

挟み撃ちだ・・・。

フェイト

「びゃあゝ!!」 ポンッ

> i 3 6 4 2 4 — 4 2 6 0 <

フェイト

「嘘よ・・・!!何で挟み撃ちされるのよ・・・!?!」

不幸な、フェイト・・・。

プルルル

金糸雀

「何かしら・・・!?!」 『忍者の通報によってフェイト・T・ハラオウン確保』

フェイトが捕まったかしら・・・!?!」

なのは

「フェイトちゃん・・・！！ってもう残り9人・・・！！？」

蒼星石

「忍者の奴・・・！！何て事を・・・！！」

祈里

「こんな早く捕まるって・・・！？」

残る逃走者は、

金糸雀、蒼星石、真紅、祈里、なのは、はやて、マリオ、ネス、ヤングの9人・・・。

果たして、この9人の逃走者は疑いを晴らす事が出来るのか！？

上手く忍者から免れる（後書き）

残る逃走者は、

金糸雀、蒼星石、真紅、祈里、なのは、はやて、マリオ、ネス、ヤングの9人・・・。

果たして、この9人の逃走者は疑いを晴らす事が出来るのか!？

ミッション3終了！更に幸運な事に・・・。（前書き）

クリアしていない者は、5人・・・。

ミッション3終了！更に幸運な事に・・・。

ミッション3終了！しかし・・・。

残る逃走者は、

金系雀、蒼星石、真紅、祈里、なのは、はやて、マリオ、ネス、ヤングの9人・・・。

まだ疑いを晴らせていない者は疑いを晴らす事が出来るのか！？

ヤング

「えっと・・・まだ疑いを晴らせてねえのはメールによると、

金系雀、真紅、祈里、なのは、俺の5人か・・・まだまだだな・・・

・
「ってか俺が急がないと行けねえぜ・・・！！！」

ヤングは奉行の元に大急ぎで向かう。

祈里

「どうしよう・・・！？忍者はいるし、ハンターはいるし、もう大変だよ・・・！！！」

祈里、思い通りに動けない・・・。

なのは

「忍者がいる……！！笛鳴らされたら万事休すだ……！！」

なのははすぐに身を隠す。

真紅

「あつたわ……奉行の元に着いた……！！」

真紅、奉行の元に到着……。

奉行（役：シグナム）

「ん？お前は……敵軍か？」

真紅

「違うに決まってるじゃない……！！その証拠に右腕を見せるわ・
・・」

真紅は服の袖を捲くり、右腕を見せる。

奉行（役：シグナム）

「……どうやら敵軍では無さそうだな。お前の言葉を信じよう」

真紅

「当たり前じゃない……！！」

真紅 ミッションクリア

真紅

「しんどいわ・・・早くどこかに隠れましょう・・・!!」

真紅はすぐに隠れ場所を探した。

ヤング

「少しこれはキツイぜ・・・って忍者いるって・・・!!しかもハンターも!!」

ヤングはすぐに忍者とハンターから急いで離れる。

ヤング

「ああ、間一髪だ・・・!!」

しかし・・・。

忍者

「!!ピーッ!!!!!!!!」

もう一人の忍者に、見つかった・・・。

ヤング

「勘弁してくれよ・・・!!しかもハンター迫って来てる!!」

ハンター

「!!」

見つかった・・・。

ヤング

「ぐあゝ！？ちよつ、何でこつち来るんだよ！？」

ヤングは一目散に逃げる。

しかし彼がハンターを振り切れる訳が無い。最早、逃走不可能・・・。

ヤング

「うわあゝ！！」 ポンッ

> i 3 6 4 5 1 — 4 2 6 0 <

ヤング

「ああゝ、畜生・・・！！忍者行動力凄すぎだろ・・・！！？」

忍者は、神出鬼没で行動力がかなり高い・・・。

一度も忍者に見つからず動くのは、ほぼ不可能に近い・・・。

プルルルル

マリオ

「何だよ・・・！！？こんな時に！！」忍者の通報によってヤングリ
ンク確保」

ついにヤングまで・・・！！！」

ネス

「うわあ、ミッション結構活躍してたのに・・・!!」

蒼星石

「ヤングさん・・・!!」

牢獄DEトーク

雛莓

「もう8人だね」

薔薇水晶

「誰が逃げ切るのかドキドキして来たわ」

咲

「でも、まだ60分台だよ？逃げ切るのは結構難しいって・・・」

水銀燈

「逃げ切る可能性は低いって事ね・・・」

フェイト

「誰でも一人でも良いから逃げ切って・・・!!3回連続全滅なんて全然嬉しくない」

金糸雀

「こちらにもハンターがいるかしら・・・」

金系雀は忍者やハンターに警戒する。

金系雀

「そろそろ自首しようかしら・・・」

金に貪欲な、金系雀・・・。

なのは

「あつ、奉行の元に着いた・・・!!」

なのは、奉行の元にたどり着く・・・。

奉行（役：シグナム）

「お前は・・・敵軍か？」

なのは

「・・・ってこの人どつかで見た事がある様な・・・
あつ、いや、私は敵軍ではありません！」

奉行（役：シグナム）

「なら右腕を見せろ」

なのは

「はい・・・」

なのはは服の袖を捲くり、右腕を見せる。

奉行（役：シグナム）

「・・・お前は敵軍ではなさそうだな。お前の言葉を信じよう」

なのは

「ありがとうございます・・・!!」

高町なのは ミッションクリア

なのは

「あゝ、助かったわ・・・!!」

なのはは一安心する。だが、この先はまだ安心出来ない・・・。

祈里

「あれっ、なのはちゃん・・・？」

なのは

「祈里ちゃん？早く右腕見せようよ」

祈里

「勿論だよ・・・!! あっ、奉行！」

祈里、奉行の元に到着・・・。

奉行（役：シグナム）

「お前は・・・敵軍か？それとも・・・」

祈里

「私は敵軍ではありませんよ．．．!!」

奉行（役：シグナム）

「なら右腕を見せろ」

祈里

「はい．．．!!」

祈里は右腕を見せる。

奉行（役：シグナム）

「．．．どうやら敵軍じゃ無さそうだな。お前の言葉を信じよう」

祈里

「助かりました．．．!!」

山吹祈里 ミッションクリア

祈里

「ありがとうございます．．．なのはちゃん、ここから離れようよ」

なのは

「そうだね．．．!! 疑いを晴らした人は忍者に追われなくなるよ」

2人は奉行の元から離れた。

だが、ただ一人、クリア出来ていない者がいる……。

その人物とは……。

金系雀

「なっ、クリア出来てないのはこちらだけかしら……!?!」

ローゼンメイデンの第2ドール、金系雀だ……。

金系雀

「早く向かおうかしら……!?!」

金系雀は足を急がせる。

だが……。

忍者

「!!ピーッ!!!!!!!!」

忍者に、見つかった……。

金系雀

「あっ、後もう少しなのに……!?!」

金糸雀は奉行の元に大急ぎで向かう。だが・・・。

ハンター

「！」

向かった先に、ハンター・・・。

金糸雀、最早、逃走不可能・・・。

金糸雀

「ギャア〜!!」 ポンッ

> i 3 6 4 5 2 — 4 2 6 0 <

金糸雀

「うわあ、最悪!! 残り60分で確保!?! 折角貯めたお金が水の泡になっちゃった・・・!!」

もうどうしようかしら・・・!!」

薔薇水晶と同じ目にあつた、金糸雀・・・。

プルルルル

蒼星石

「何ですか・・・!?! 『忍者の通報によって金糸雀確保』
うわっ、もう7人ですか・・・!?!」

マリオ

「これはキツイ・・・！！更に

『全員無事に疑いを晴らせ、忍者に通報されなくなった』けどよ・・・！！！！」

これで残る逃走者は、

蒼星石、真紅、祈里、なのは、はやて、マリオ、ネスの7人・・・。

この厳しい状況から、誰が逃げ切るのか・・・！？

その頃、姫の屋敷にて・・・。

姫（役：キャロ・ル・ルシエ）

「私の秘法、時の鏡は無事盗まれていない様ですね・・・。」

姫は最上階にて時の鏡を見守っている。

その時・・・。

カーン！！カーン！！

突然、鐘が鳴り出した！！

『敵軍が攻めてきました！！全員、避難して下さい！！』

と言われた同時に住民は全員安全な地に避難した。

敵軍 A

「ここが姫の屋敷か．．．！！焼き払え！！」

敵軍全員

「オーツ！！！！！」

そう言うと同時に敵軍全員は火をつけた。

姫（役：キャロ・ル・ルシエ）

「．．．！！火が迫って来てます．．．！！
誰か助けを呼びましょう．．．！！」

そう言うとき姫は時の鏡を使用し、牢獄の前に復活の珠を台座の上に出現させた。

姫（役：キャロ・ル・ルシエ）

「大勢いた方が助かります．．．！！誰か．．．！！」

真紅

「．．．！？城が燃えてる．．．まさか．．．！！」

マリオ

「敵軍が攻めて来たらしいな．．．これは危ねえぜ！！」

ネス

「うわっ、ここにも敵軍がいるよ！？一体どうしちゃったの！？」

その時。

ブルルルル

祈里

「・・・！？『ミッション4』！？」

マリオ

「『牢獄の前に復活の珠が置かれた台座が出現した』

復活・・・まさか！！」

ネス

「『残っている逃走者は誰でも一人でいいので5つの復活の珠に全て触れれば』」

はやて

「『ランダムで5人復活出来る』 凄いで！！これは早く復活させないと！！」

牢獄DEトーク

金系雀

「うわっ、焦げ臭い！！」

水銀燈

「どうやら敵軍が攻めて来たようね・・・しかもたいまつを持っているのが見えるわ・・・」

ヤング

「それよりもさ、復活だぜ？ランダムでよ・・・だけど誰が復活出

来るのかわからんけど」

残る逃走者は、

蒼星石、真紅、祈里、なのは、はやて、マリオ、ネスの7人。

果たして、5人を復活出来るのか！？

ミッション3終了！更に幸運な事に・・・（後書き）

ここで、復活者を募集します。

一人一回のみ投票。ここで確保者を紹介します。

（捕まった順）

アクセル

エックス

雛苺

ゼロ

ソニック・ザ・ヘッジホッグ

アミティ

あんどうりんご

アルル・ナジャ

薔薇水晶

日向咲

翠星石

水銀燈

フェイト・T・ハラオウン

ヤングリンク

金系雀

先着5名様です。確保者の名前を一人だけ書いて投票して下さい（
被り禁止です）

投票は活動報告で受け付けてます。

制限が結構ありますが、投票よろしくお願いします。

5人を復活せよ！（前書き）

果たして、残る逃走者は5人を復活出来るのか！？

5人を復活せよ！

残り50分までに復活の珠に触れないと、5人を復活出来ない！！

マリオ

「人任せだ・・・！！」

ネス

「捕まるのが怖いから行かない・・・！！」

真紅

「これは・・・行かない方がいいわ！！」

なのは

「行かない・・・！！」

はやて

「これはなあゝ・・・行かない方がいいかもな」

祈里

「どうしよう・・・ここは行かない方が」

蒼星石

「行きます・・・！！5人を復活させます！！」

約6名が、人任せの様だ・・・。

動けば、ハンターに見つかるリスクが高まる・・・！！

マリオ

「よっしゃ・・・！！ハンター俺を見つけてねえ・・・！！」

殆どハンターに追われた事が無い、マリオ・・・。

果たして、彼が逃走成功となるか。

しかし、彼の近くに、ハンター・・・。

ハンター

「・・・」

しかし、ハンターは、まだ気づいていない・・・。

マリオ

「ふう、危ねえ危ねえ・・・！！見つからなくて良かったぜ・・・！！」

マリオ、あまり動く気は無さそうだ・・・。

牢獄DEトーク

ヤング

「やってくれる奴は結構少ないと思うぞ？」

水銀燈

「やってくれる奴は祈里か蒼星石かはやてとなのはの4人ぐらいね・
・・」

ソニック

「えらい可能性のある奴少ねえな、水銀燈・・」

蒼星石

「ここは・・あつ、ハンターいます・・!!」

蒼星石はすぐにハンターから離れる。

ハンター

「・・・」

ハンターは、まだ気づいていない・・・。

蒼星石

「良かったです・・気づかない内に動きましょう」

蒼星石、慎重に動く・・・。

なのは

「自首しようかな・・でも、自首したら皆に恥をかくことになる
し・・・」

自首とは、電話ボックスで自首を報告すればそれまでの時点の賞金

を獲得出来る。

ただし、自首をすれば好感度は、下がる・・・。

真紅

「ハンター・・・！？すぐに身を隠そう・・・！！」

真紅はすぐに身を隠す。

真紅

「ああ、鬱陶しいわ・・・！！これじゃ何時まで経っても動けないじゃない・・・！！」

思う通りに動けない、真紅・・・。

牢獄DEトーク

ソニック

「誰も来る気配がねえな・・・」

水銀燈

「もしかしたら誰も来ないんじゃない・・・」

金糸雀

「冗談じゃないかしら・・・！！絶対いるよ！！」

ヤング

「それにしても、残り45分だぜ？間に合うのか・・・？」

薔薇水晶

「その考えは止めましょう・・・」

ネス

「男の逃走者は僕とマリオだけか・・・何かプレッシャーかかる」

ネス、動きたい様だが上手く動けない・・・。

はやて

「もう44分や・・・誰か復活者はいるんか？」

はやて、復活者が出てくる事を祈る・・・。

蒼星石

「ハンターどこに行ってもいるじゃないですか・・・！！
全く、ハンターは神出鬼没ですね・・・！！」

蒼星石、ハンターに見つからない様、慎重に動く・・・。

蒼星石

「・・・ハンター早くどっか行って下さい・・・！！」

蒼星石、無闇に動けない……。

牢獄DEトーク

ヤング

「つてもう後1分だけ……！？時が流れるのが早すぎる……！
」

全員

「ええっ！？」

その時、蒼星石が牢獄の前にたどり着いた……！！

蒼星石

「皆さん……！？やつと着きました……！！」

ヤング

「蒼星石……あの時世話になった……！！」

咲

「ありがとう蒼星石！やってくれると思ってたよ……！」

蒼星石

「皆さん僕を信頼してたんですね……じゃあ触れますよ……！」

蒼星石は5つの復活の珠に触れる。

それと同時に5人の確保者が牢獄の外にワープされた。

復活者は・・・？

ヤング

「俺か！？やったぜ！！」

フェイト

「ありがとう蒼星石！！」

エックス

「序盤で捕まった俺が・・・！！」

水銀燈

「忝い・・・！！」

ソニック

「助かったぜ！！サンキュー蒼星石！！」

この5人だ・・・。

> i 3 6 4 6 4 — 4 2 6 0 <

5人は元気良くエリア内に走って散らばって行った・・・。

プルルル

真紅

「えっと・・・何々・・・『復活情報』まさか!!」

マリオ

「『蒼星石の活躍によって、水銀燈、フェイト・T・ハラオウン、ヤングリンク、

ソニック・ザ・ヘッジホッグ、エックスの5人が復活した』

おっ、スマブラ組全員復活したか!! ナイスだ蒼星石!!」

祈里

「凄いよ蒼星石君・・・頑張ったね!!」

蒼星石の活躍により残る逃走者は、

水銀燈、蒼星石、真紅、祈里、なのは、フェイト、はやて、マリオ、

ネス、ヤング、

ソニック、エックスの12人。

果たして、12人の逃走者はハンターに打ち勝てるのか!?

5人を復活せよ！（後書き）

蒼星石の活躍により残る逃走者は、
水銀燈、蒼星石、真紅、祈里、なのは、フェイト、はやて、マリオ、
ネス、ヤング、
ソニック、エックスの12人。

果たして、12人の逃走者はハンターに打ち勝てるのか！？

ミッション5発動！（前書き）

また、新たなミッションが発動される・・・！！

ミッション5発動！

その頃、姫達は家来に頼んで火を消火し、敵軍は無事追い払った・・。

姫（役：キャロ・ル・ルシエ）

「さてさて・・・この時の鏡で街の様子を見てみましょう」

姫は時の鏡を使い、街の様子を映す・・・。

姫（役：キャロ・ル・ルシエ）

「・・・？何ですかこの装置は・・・？」

姫、謎の装置に疑問に思う。

謎の装置には、2つのレバーが着いており、各エリアに一つずつ設置されていた・・・。

合計、5つ・・・。

ブルルルル

ネス

「うわっ！？何だよ・・・！？」『各エリアに一つずつハンターボツ

クスが設置された』

ハンターボックス!?」

マリオ

「『残り30分までに合計5つのハンターボックスを阻止しなければ』」

水銀燈

「『5体のハンターが放出される』本当に……!?!」

真紅

「『尚、阻止するにはボックスの左右に着いている2つのレバーを2人で協力し』」

ヤング

「『同時に降ろさなければならない』……!!ヤバえよこりや……!?!」

ソニック

「これは合計すると……約10人の逃走者が必要だな……!?!」

ヤング

「蒼星石の為にも、やるしかねえぜ……!!開始早々すぐ捕まったら

恥をかかせてしまうからな……!?!」

ソニック

「この自慢の足で、逃げ切ってやるぜ……!?!」

水銀燈

「蒼星石のお陰で助かったわ．．．!!」

フェイト

「私達が頑張らないとね!!」

エックス

「俺等だって、やってやるぜ．．．!!」

牢獄DEトーク

金糸雀

「今度はハンター放出を阻止するのかしら？」

薔薇水晶

「皆無事クリアなさいよ．．．」

りんご

「皆、頑張って!!」

マリオ

「今回も人任せだ．．．!!」

しかし、彼に忍び寄る、ハンター．．．。

> i 3 6 4 6 8 — 4 2 6 0 <

ハンター

「!」

見つかった・・・。

マリオ

「このままやり過ぎすか・・・ってハンター!？」

マリオは一目散に逃げようとしたが
行き止まりな為、最早、逃走不可能・・・。

マリオ

「おぶあゝ!!」 ポンッ

> i 3 6 4 6 9 — 4 2 6 0 <

マリオ

「俺が・・・!! スーパースターの俺が恥ずかしい事をした・・・!!」

任天堂のスーパースター、復活者が出て数分で散った・・・。

ブルルルル

ネス

「こんな時に何・・・!!? あっ、『マリオ確保』・・・!!」

水銀燈

「でも、コイツ結構生き延びてたじゃない」

ソニック

「マリオ、もうちょっと頑張ってくれよ・・・!!」

祈里

「マリオ君捕まった・・・!!あつ、蒼星石君・・・!？」

蒼星石

「あつ、はい？」

祈里、蒼星石と合流・・・。

祈里

「君、凄いね・・・復活者出したなんて・・・!!」

蒼星石

「いや、それほどありませんよ。あつ、それより近くに
ハンターボックスがありますから、早く降ろしてしましましょう。
・・・!!」

祈里

「そうだね・・・!!早く降ろそう!!」

2人はハンターボックスの元に駆け寄り、2つのレバーに近寄る。

2人

「せーの・・・!!」

2人は同時にレバーを降ろす。

ハンターボックス1個阻止成功。残り4個。

蒼星石

「やりましたね・・・!! あっ、ハンターいますよ・・・!!」

祈里

「本当・・・!?!」

2人はすぐにハンターから大急ぎで離れる。

ハンター

「・・・」

しかし、ハンターは、まだ気づいていない・・・。

ネス

「あっ、1個阻止出来た様だね・・・!! 僕も手伝わなきゃ・・・!!」

ネス、ミッションに動く・・・。

だが、彼に迫る、ハンター・・・。

ハンター

「！」

見つかった・・・。

ネス

「あつ、こっちかな・・・？こっちに進もう」

しかし、ネスは、まだ気づいていない・・・。

ハンター

「・・・」

ネス

「よし・・・ハンターいな・・・って後ろからあゝ！？」

ネスは一目散に逃げる。

しかしハンターとの距離があまりにも近すぎた為、最早、逃走不能・・・。

ネス

「ひぎゃあゝ！！」 ポンッ

> i 3 6 4 7 0 — 4 2 6 0 <

ネス

「嘘だろ・・・！？僕がこんな目に会うとは・・・！？」

ネス、あっけなく終わった・・・。

プルルルル

ソニック

「何だよ・・・！？『ネス確保』うわあ、ついにネスまで・・・！
！」

真紅

「もう10人・・・！？早くも2人が確保されてるわ・・・！！」

水銀燈

「あつ、エックス・・・！！」

エックス

「何だよ・・・！？今忙しいんだからさ・・・！！」

水銀燈

「いや、貴方もミッションやるんでしょう？」

エックス

「・・・当たってるな。折角会ったから合流しちまおうぜ」

水銀燈

「人手が多くて助かったわ・・・!!」

水銀燈、エックスと合流・・・。

果たして、残る4個のハンターボックスの放出を阻止出来るのか！
？

ミッション5発動！（後書き）

果たして、残る4個のハンターボックスの放出を阻止出来るのか！
？

ハンター放出を阻止せよ（前書き）

残る逃走者は、10人・・・。

ハンター放出を阻止せよ

牢獄DEトーク

りんご

「もう残るは10人だね・・・もう誰でも良いから逃げ切つてよ・・・！！」

水銀燈、真紅、祈里、ヤング、フェイト、ソニック、なのは、はやて、エックス、

この中、誰でも一人で良いから逃げ切つて欲しい・・・！！
10人とも頑張つて・・・！！」

薔薇水晶

「皆を応援しましょう。皆さん、頑張つて！！応援してるから！！」

ネス

「いよいよ結構後半に近づいてきたね・・・！！」

ヤング

「あつ、あつた・・・！！だけでもう一人いねえと・・・！！」

その時、真紅がヤングの側に駆け付けて来た。

真紅

「ヤング・・・！？早く止めないとヤバイよ・・・！？」

ヤング

「わあってるよ．．．！！誰か来るの待ってたんだよ．．．！！
お前、手伝ってくれ．．．！！」

真紅

「当たり前じゃないの．．．！！」

2人はレバーを同時に降ろす。

ハンターボックス1個阻止成功。残り3個。

ヤング

「これで残るは3個．．．！！って近くにハンターいるって！！」

真紅

「早く逃げないと！！」

ハンター

「！！」

見つかった．．．。

2人は一目散に逃げる。

ハンターの標的は．．．。

ヤング

「俺かゝ!?!」

ヤングリンクだ・・・。

ヤング

「ちよつ、復活してから全然経ってないって!!こつち来るなよ!」

最早、逃走不可能・・・。

ヤング

「ギャアゝ!!」 ポンッ

> i 3 6 4 8 9 — 4 2 6 0 <

ヤング

「ちよつと待てよ・・・!!?俺蒼星石にめっちゃ酷い事したぞ、俺・
・・・!!」

復活組、早くも一人確保・・・。

プルルルル

蒼星石

「何ですか・・・！？『ヤングリンク確保』嘘でしょう！？
もう捕まったんですか！？」

エックス

「マジかよ・・・！？今回の逃走中は何かがおかしいぞ・・・！！」

ソニック

「本当かよ・・・！？これはガチで急がねえと・・・！！」

なのは

「復活者が出てマリオ君とネス君とヤング君が確保された・・・
って全員スマブラ組じゃん・・・」

なのははここまで全員スマブラ組が確保されている事が分かった・・・。

なのは

「残るは9人・・・！！結構クリアキツくなって来たわ・・・！！」

なのはも、ミッション参加だ・・・。

エックス

「ちよつと急げよ・・・！！ハンター放出まで後9分だつて・・・！！」

水銀燈

「ウダウダうるさいわね・・・急いでるって言ってるでしょ・・・」

水銀燈はかなり足を急がせている。

エックス

「早く!!」

水銀燈

「黙れ!!」

ようやく、ハンターボックスにたどり着いた。

2人

「せーの・・・!!」

2人は同時にレバーを降ろす。

ハンターボックス1個阻止成功。残り2個。

水銀燈

「ああ、疲れたわ・・・!!」

2人は別々に行動した。

ソニック

「ハンター放出は危ねえよな・・・行つとくか。ここは狭い道だから早めに抜けといた方がよいよな・・・!!」

ソニック、ハンター放出の阻止に向かっている。

しかし、前方からも、後方からも、ハンター・・・。

ソニック

「・・・!?ハンターいるって!?うわあつ、2体も!？」

ソニック、万事休す・・・。最早、逃走不可能・・・。

ソニック

「おわあつ!!」 ポンッ

> i 3 6 4 9 0 — 4 2 6 0 <

ソニック

「マジかよ・・・!?俺何もしてねえぞ・・・!!?うわあ、皆に恥かいたし・・・!!」

蒼星石、I'm sorry!!」

ソニック、出番を見せられなかった・・・。

プルルル

エックス

「だから何だよ．．．！？『細道にてソニック・ザ・ヘッジホッグ確保』」

ていうかソニック、あまり出番見せてなかったじゃねえか．．．
「！！」

真紅

「ハンターはどれだけ早いんだよ．．．！？ってか蒼星石に失礼じゃない．．．！？」

蒼星石

「ええゝ！？早く捕まったんですか！？何ですか．．．！？」

エックス

「って、男の逃走者俺だけ．．．！？うわっ、一気にプレッシャーにかかって来た．．．！！」

唯一の男性逃走者、エックス．．．。

果たして、彼が逃走成功なるか。

なのは

「更にソニック君まで．．．！？あんなに早いソニック君が！？しかも復活組で早く捕まっちゃってるよ．．．！！
これは何かおかしいよ．．．！！」

なのはソニックの確保に疑問に思う。

牢獄DEトーク

ソニック

「残りは8人か・・・ってか俺、何も良い所見せてねえじゃねえか・
・・!!」

ソニックはトボトボと牢獄に入る。

薔薇水晶

「ヤングも同じ事よ、気にしないで」

ヤング

「俺の方がお前より先に捕まっただぞ・・・!!」

残る逃走者は、
水銀燈、蒼星石、真紅、祈里、なのは、フェイト、はやて、エック
スの8人。

果たして、ハンターボックスを阻止し、逃走成功出来る者はあるのか!?

ハンター放出を阻止せよ（後書き）

残る逃走者は、

水銀燈、蒼星石、真紅、祈里、なのは、フェイト、はやて、エックスの8人。

果たして、ハンターボックスを阻止し、逃走成功出来る者はあるのか！？

残るは8人、そして・・・。（前書き）

残る逃走者は、8人・・・。

果たして、ハンター放出を、阻止出来るのか！？

残るは8人、そして・・・。

なのは

「もう8人・・・！！こうなったら動くしかない・・・！！」

なのは、ミッションに動く・・・。

はやて

「これは人手が足りへんのちゃうんか・・・！？だから行かんとアカンわ・・・！！」

はやて、確実にミッションを成功させる為に動く・・・。

エックス

「もうしんどい・・・これからどうしようか・・・！！」

エックス、まだ動こうか悩み中・・・。

フェイト

「蒼星石に復活してもらった恩を返す為、絶対に成功させよう・・・！！」

フェイト、蒼星石に恩を返す為、ミッションに動く・・・。

牢獄DEトーク

ヤング

「いよいよ男性陣が1人になっちまったか・・・」

ソニック

「残るは女性7人と男性1人だな」

薔薇水晶

「一寸待つてよ・・・！！男性陣情けなさすぎじゃないの・・・！！」
「？」

アミティ

「あとエックスが捕まれば、男性逃走者全滅だし・・・！！」

はやて

「よしよし・・・！！早くも着いたで・・・！！」

はやて、装置に到着・・・。

はやて

「でも、誰か来おへんとアカン・・・！！ほんま誰か来てや・・・！！」

はやて、足を急ぎ足・・・。

蒼星石

「あつ、ここにもハンターがいます・・・！！」

蒼星石、近くの草むらに隠れる・・・。

蒼星石

「残るは8人・・・僕達が頑張らないと行けません・・・!!」

蒼星石、意地でもミッションを成功させたい様だ・・・。

エックス

「おい、マジかよ・・・!!?ここにもハンターいるじゃねえかよ・・・!!?」

エックスは隠れ場所をハンターに見つからない様に変える。

ハンター

「・・・」

ハンターは、まだ、気づいていない・・・。

エックス

「危ねえ危ねえ・・・!!」

しかし、逃げた先にも、ハンター・・・。

> i 3 6 5 5 8 — 4 2 6 0 <

ハンター2体

「!!」

2体共に、見つかった・・・。

エックス

「よし、上手くやり過ごした・・・ってハンター2体ともかよ!？」

エックスは一目散に逃げようとするが、

ハンターが2体、更には行き止まりな為、最早、逃走不可能・・・。

エックス

「ひゃゝ!！」 ポンッ

> i 3 6 5 6 0 — 4 2 6 0 <

エックス

「ああゝ!？反則だろ、ハンター2体って・・・!!しかも復活組で3番目に確保されてるし・・・!!！」

ついに、力尽きた・・・。

ブルルルル

真紅

「何よ・・・!!こんな忙しい時に・・・!!なっ

『エックス確保』ちよつと・・・!!情けなさすぎでしょ・・・!!?」

蒼星石

「男性陣の復活組何やってるんですか・・・!!?折角復活させたの

に・・・!!」

フェイト

「ていうか、男の逃走者全滅じゃん!？」

牢獄DEトーク

ソニック

「男の逃走者全滅か・・・」

雛莓

「本当に、なにやってたの・・・!!?」

金系雀

「情けない事が2つあるかしら・・・!!」

これに残る逃走者は、

水銀燈、蒼星石、真紅、祈里、なのは、フェイト、はやての7人。

全員、女性のみ・・・。

真紅

「男性は使えないわね・・・私等が頑張らないと・・・!!」

なのは

「絶対に、成功してみせる!!」

はやて

「誰か・・・!!早う来てえや・・・!!」

水銀燈

「残り7人・・・!!絶対に逃げ切ってみせるわ・・・!!」

フェイト

「意地を見せてみせる!!」

蒼星石

「ここで確保されたら全てが水の泡です・・・!!僕も逃げ切らないと行けません!!」

祈里

「ハンター放出なんて、絶対にさせないよ・・・!!」

全員、気合を入れている・・・。

果たして、このミッションは成功なるのか!?

残るは8人、そして・・・。（後書き）

全員、気合を入れている・・・。

果たして、このミッションは成功なるのか!？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0044z/>

スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中 『オータムヴィレッジ編』

2011年12月5日19時01分発行